

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月 14日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2011

課題番号：22720070

研究課題名（和文） <映画作家>の起源-無声期アメリカにおける映画監督の自己成型に関する歴史的研究

研究課題名（英文） The Origin of Cinematic Authorship - A Historical Research about Self-Fashioning of Film Director in the Silent Era America

研究代表者 後藤 大輔（GOTOH DAISUKE）

早稲田大学・演劇博物館・研究員

研究者番号：50468849

研究成果の概要（和文）：

報告者は平成22年度及び23年度において、本研究課題に関する以下の2点の研究成果をおさめた。第1点は文献・資料調査に関するものである。具体的には本研究の主要目的である映画監督の「自己成型」について幅広い観点から、国内外で文献調査及び収集を行った。第2点はデータベース作成である。本研究課題の文献資料調査によって得られた諸資料に関するデータベースを作成した。全ての資料を電子化して検索可能にした。以上の結果、未だ本格的な研究蓄積に乏しい「映画監督」研究にアプローチするための重要な研究成果が得られた。

研究成果の概要（英文）：

The reporter obtained the expected results of the research in the Heisei 22/23 fiscal year. These results consist of two points. The first point is related with books and documentary search in Japan and the United States of America. The second point is related with database creation. The data were classified based on especially detailed item. And the work was digitized. From the above this research, the important results for approaching "film director" research were obtained.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合 計
2010 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
年度			
総 計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：芸術学・芸術史・芸術一般

科研費の分科・細目：芸術学

キーワード：芸術学、映画史、映画学、映画監督、アメリカ映画

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

映画監督に関する研究は今日では極めて一般的なテーマである。1950 年代後半以後のフランスで映画理論家のアンドレ・バザンが理論化し、フランソワ・トリュフォーらの批評家兼映画監督が実践した主に映像の様式的分析に依拠する作家主義的アプローチを起源とする。こうした手法は 1960 年代後半のロラン・バルトやミシェル・フーコーらのフランスの哲学者による、作家という制度を理論的に反省する試みとともに、1970 年代以後のアメリカの映画学によって体系的に摂取された。現代では‘Authorship’研究として独自の研究領域を形成しており、国内外の学界で広く認知されている。こうした映画監督を作家とみなす研究は十分な研究蓄積があるのに対して、本研究の目的である映画監督が自律的な芸術家として生成する歴史的過程に関する研究は皆無に等しかった。

2. 研究の目的

従来の映画史や映画監督研究においては、以下の 2 点の前提が保持されてきた。まず、(1)「芸術家対産業」のような単純な二項対立図式を前提された結果として、(2)無声期の映画監督が伝説化及び作品の正典化が強力に促進されてきた。そこで本研究課題では、無声期アメリカの映画監督が自律的な芸術家となる過程に関する歴史的諸問題の解明を目的とする。

3. 研究の方法

特に無声期アメリカの映画監督が自律的な芸術家となる歴史的過程の解明のため、下記の 3 点の手法を採った。(1)各監督が各製作会社によって、いかなる役割とどの程度どの程度の裁量が具体的に与えられてきたかの歴史的変遷を実証する。(2)当時の映画監督達が、自身を独自の形式で商品化するために、いかに戦略的に自己を成型してきたかを映画雑誌や各種宣伝資料の分析によって明らかにすること。(3)自己成型という新歴史主義的観点を分析装置として利用して、映画監督という表象が社会の様々な領域との交渉から歴史的に生じてきたことを実証すること。

4. 研究成果

主に上記研究概要の繰り返しになるが、下記の 2 点が主なものである。(1)文献・資料調査に関するもの。具体的には本研究の主要

目的である映画監督の「自己成型」について、映画学や映画史にとどまらず、歴史学、社会学、美学、批評理論など幅広い観点から文献調査及び収集を行った。アメリカ合衆国では主要なアーカイブの協力を得て、無声期アメリカの映画監督デイヴィッド・ウォーク・グリフィスやエーリッヒ・フォン・シュトロハイムに関する有用な資料の複写許可を得た。(2)データベース作成に関するもの。本研究課題の文献資料調査等によって得られた多量の諸資料に関して詳細な項目立てをしてデータベースを作成した。さらに全ての資料を OCR 処理して電子化し全ての文字資料は検索可能にした。これらの成果によって、未だ国内外で本格的な研究蓄積に乏しい、「映画監督」というコンセプトの歴史的生成に関する研究にアプローチする上で不可欠の研究成果が得られた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

後藤大輔、劇場化される映画史と映画作家、それらの表象を越えてー 無声期アメリカにおけるエーリッヒ・フォン・シュトロハイムを例に、表象文化論学会第 5 回大会、2010 年 7 月、

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

後藤 大輔 (GOTOH DAISUKE)
早稲田大学 演劇博物館 招聘研究員

研究者番号 : 50468849

(2) 研究分担者

()

研究者番号 :

(3) 連携研究者

()

研究者番号 :